

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2023-011
2.研究課題名	視覚情報処理における嗅覚の影響に関する研究
3.研究期間	令和6年1月（倫理委員会承認後）～ 令和8年3月31日
4.研究の概要	意義・目的 ヒトの知覚過程においては、視覚情報が嗅覚情報処理に影響することが知られている。例えば、匂いと一致する写真（オレンジの写真など）を呈示すると、匂いの同定にかかる時間が短くなり、より好ましく評価される。また、色情報も匂いの強度や印象に影響することが知られている。バラの香料を溶かした水溶液の色が、緑の場合よりも赤の場合の方が、バラの匂いであると識別しやすい。加えて、匂いの強度と好ましさも高まる。このように視覚から嗅覚への影響については、多くの研究がなされてきた。 一方で、近年は嗅覚から視覚への影響も調べられている。ある匂い（例えば、バナナの匂い）を呈示することで、その匂いと一致する画像を見つける時間が早くなる、もしくはその画像を無意識に長く見るようになることが示されている。しかしながら、このような嗅覚から視覚への情報処理過程のメカニズムの詳細は不明である。 ヒトの感覚情報処理においては、基本的に視覚優位であることが長らく支持されてきた。しかしながら、近年、ヒトにおける嗅覚の機能も見直されてきている。これまで考えられてきた以上にヒトの認知や行動に影響している可能性がある。 本実験の目的は、視覚情報処理の過程において、嗅覚情報が視覚の色と形のどちらの情報と結びついているのか、調べることである。本研究ではストループ効果を応用した視覚課題を行う。色名の文字色と呈示する匂いの組み合わせを変えることにより、課題成績と視線の動きを比較する。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 東北大学文学研究科の日本人大学生・大学院生男女計50名を予定し、実施担当者による口頭での告知及び実験内容を記載した広告の掲示により募集を行う。また、実験の初めに嗅覚同定能力測定キット：オープンエッセンス（和光純薬株式会社）を用いて、嗅覚同定能力（何の匂いかわかる能力）の検査を行う。合格基準に達した参加者のみ、本実験の対象とする。なお、実験者及び対象者には実験前日及び当日に検温し、合わせて体調にも異常がないことを確認する。 問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会（022-795-6103） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）